

PHOTO ESSAY

西条キャンパスの自然(動物)

-5-

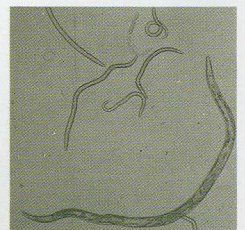


総合科学部
自然環境研究講座

富
樫
一
巳

マツノマダラカミキリ

Monochamus alternatus



一昨年、私の研究室を訪れたカナダの友人が、ぜひ松枯れの激害地の写真を撮りたいと言った。私はすぐにある場所を思い浮かべた。西条キャンパスである。彼は、山中池周辺の山やががら第一宿舎前の山に歓喜しながら多くの写真を撮った。現在でも、広島大学の西条キャンパスには松が多い。そして、松枯れも多い。この松枯れの原因は、多くの場合材線虫病によるものである。病原体は体長〇・六〜一ミリのマツノザイセンチュウという小さな生物である。この線虫は枯れた松の木の中で増殖し、その数は一グラムの乾燥した材の中に一万頭位になることもある。松が枯れ始めると、マツノマダラカミキリという昆虫が飛来し、樹皮の下に産卵する。産まれた幼虫は内樹皮を食べて大きくなり、翌年の六月から七月に成虫となって枯れた松から出て来る。この時、成虫の気管(昆虫の呼吸器官)の中にマツノザイセンチュウが入り込んでいる。カミキリ一匹当りの線虫の数は〇から二〇万頭までで、さまざまである。もっとも、この線虫は昆虫の体内では増殖できない。

この媒介昆虫が枯れた松から出てくると、健全な松に飛んでゆき、小枝の樹皮を食べる。この時にできる傷口から線虫が松の中に入り、松が発病する。このように、マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリは、相手の繁殖にとって互いに有利な作用を持っている。

(とがし・かつみ)